■ ポストコロナの新時代 低炭素社会構築のために 日本が生きる道への模索

**ひまわりの夏 2022 神戸便り From Kobe 転載** 

1. 神戸新聞コラム 2022.7.29. 「正平調 -聞くと聞く-」

. 元阪大総長 臨床哲学の鷲尾清一氏

元阪大総長 臨床哲学の意尾消一氏 エッセイ 神戸新聞 2022.7.29. 「汀にて — 謙虚な叡智 —」

【鉄の話題】 Internet NEWSより

## 1. 神戸新聞コラム 2022. 7. 29. 「正平調 -聞くと聞く-」

最近 TV やインターネット等で見聞きする日本のリーダーやコメンテーターたちの言葉・行動のあまりにも軽さ・不可思議なのに危惧を抱いている。 どうも自分の役割・責任範囲をわきまえていないのでは? と感じることも多い。高度成長の時代を経て、高度情報化の時代。 次から次へと過剰な情報が玉石混合で耳にする時代。 それでいて 自分もそんな情報に頼っていると感じることも多い。

7月26日の神戸新聞コラム「正平調」にそんな日本の風潮を危惧するコラムが書かれている。 皆様にはどううつるでしょうか・・・・・

## 「聴く」と「聞く」

神戸新聞朝刊 1面コラム「正平調」 2022.7.26.より

るのは あった。 あり、 紙の である◆事件から1週間、 ることなく大事 聴などが記されている◆ ら耳を傾け、 ない中での表明だった。 をどう受け止めればいいのか、 奇せられる。 ん荒っぽいやり方だ◆ネッ よくきくこと」と公言する岸田文雄首相の 正平調 序が逆では◆ には 発言欄やイイミミにもさまざまな声が 聴かされ というの 切です」。 辞書の例文の中には の心で耳を傾けるような気持ちが大 法的にもオーケー 「自然に耳に入る」 人の話に気持ちを向けて てい 首相はこうした意見にこれか か、 たら、 れた安倍晋三元首相の国葬 も国民の声に耳を澄ませて 他 寧に説明するとか 能力開発セミナーで仕入 人の それとも いろんな考えに触れ 「きく」でも、 には、 先日は閣議決定を こちらは傾聴、 「特技は人の話を という。 多くの人が事 してしまっ 聞き流す」 整理が付か 四 て耳を傾け 首相の 0 ず いいい から

日本では「五感を研ぎ澄まして・・・・」というが、その五感と中味を一度吟味せねばと思って・・・・・。 正平調氏は「聞く」と「聴く」では大違いという。「聞き流す」のと「傾聴する」のでは大違い。 「見る」と「観る・看る・診る」では大違い。 若い頃「何を見てたんや」とよく注意されたことを思い出す。 言葉にすればおなじであるが、その理解力・行動力そしい行動パターンに大きな違いが見えてくる。 でも、今の風潮はほとんど「ことば」で済ましてしまう。

ましてや「どっちやねん」と聞き返すことには抵抗がある。

いまや世界の潮流から取り残され始めた日本 多量の情報に酔うことなく中身をしっかり「聞き分ける」「見わける」ための判断力・理解力を研ぎすまさないとと。

激動・変革の時代と言われることも多いのですが、言葉に酔っていてはいけないと正平調氏にふむふむと。





多くの日本人は気づいていなかったが、2000年以際のアメリカでこの100年起ごっていなかった関策が進行していた。発明王・エジソンが関大した。決して沈むことがなかったアメリカの場と買える会社の一社、ゼネラル・エレクトリック (GE) がみるみるその企業価値を失ってしまったのだ。
ただ、鈴木さんはそうではありませんでしたが、ためのではないかり、と不安にかられ、3回のタイミングを逃すこともあります。20人ほどの会社を28分にはないかり、と不安にかられ、3回のタイミングを逃すこともあります。20人ほどの会社を28分にはもあずぐらも歳です。結果として会社の表したもののようながあると、大きないのは、10人のようないが、10人のようないがでは、10人のようないが、10人のよ

#### 2. 鷲尾清一氏 エッセイ「汀にて」 謙虚な叡智 神戸新聞2022.7.29.朝刊 文化面

#### 元大阪大学総長 臨床哲学者 鷲尾清一氏の言葉に思いも新らた

鷲尾清一氏評論 <謙虚な叡智>の書きおこしより

すべてを知ることはできないが、何も知らないでいることもできない。 そんな中途半端場所に置かれている そのことを私たちはここ10年ほどの間に、いやというほど思い知らされてきた。

のコロナのワクチン接種を受 いが、何も知らないでいると の歴史の本があった。わたし いやというほど思い知らされ ともできない。そんな中途半 ウクライナの場合は調べよう 史の勉強はある後ろめたさか もまた繙きはじめていたの た奥さまの傍らにウクライナ たら、その日受付をされてい けに近所のクリニックを訪れ 労感と不安だけが残る、そん はこ10年ほどのあいだに、 ら始まった。これまでアフリ 1十侵攻。つい先日、4度目 をつき、じぶんで調べだして 内戦が起こっても詳しく調べ カや中東で同じような侵攻や と思ったのかという関心の にしたちは専門家とよばれる 、気候変動の原因について、 まとしなかったのに、なぜ 後ろめたさ 番男をされているのだなど 同じ本である。みなさん同 多いだ思いをため込んでき んどは迷路に入り込み、徒 へたちの意見の相違に ため自 英症への対応について、わ な場所にひとは置かれてい すべてを知ることはできな そしてロシアによるウクラ 何かとまずは訝しんだ。 わたしの場合、ウクライナ 學力発電の安全性につい そのことを、わたしたち もしくは、偏見の理由

# 「にて

の基本問題」(「外交フォー

ム 9巻7号

1996年

# 鷲田清

〈謙虚な叡智〉

ない。しいていえば、前者の

市民のあいだに、基本、差は は、研究職にある者と一般の

専門のことがらでなけれ

いことくらいだろうが、それ 探究のほうがわずかにしつこ の地理と歴史へのおのれの知 そのあと、こんどはこの地域

識の貧弱さが情けなくなっ

のは、隣の声を上げるのにも かは人によって異なる。 なことを述べ続けるのも、 り、小さい声であっても妥当 っかりした実績を上げてお であることが少なくない。し 気持ちが高揚しないのは心の う。しかし、そうしなくては 似て、気持ちは高揚するだろ ながる。) い目で見れば一つの信用につ 貧しさか、国内不安定のため 店上重要な問題ほどその色が 濃い一とのあたりで引き返す 題に直面したとき一概して生 世紀の国際政治と安全保障 政治学者・高坂正尭の遺稿 最近、こんな文章に目がと

とて日頃の癖というか、職業 終的な答えは出ないだろう問 とのできない問題、たぶん最 ただ、すべてを知り尽くすこ 柄みたいなものでしかない。

の一つ、

017年改版)にも手を伸ば 希望」(1966年初版、2 人というのはこういう考え方 をするものかと、あらためて した。そして、透視力のある

う述べるー。 ば「言論の自由」についてこ 一例だけあげると、たとえ

紀以上前の本だが、茫然と立

由があれば必ず政府が制約さ 視し、制約するための必要多 件であるけれども、言論の自 いることは、政府の行動を監 《言論の自由が認められて ち尽くすわたしたちの背中 そっと押してくれたような気

事態を見究めようとして、そ の複雑さに耐えきれないで、 現実というものは、歴史のコ りあげてもそうだが、社会的 切ってしまう、そういう態度 を体得しようと、高坂の主著 られぬものである。そのこと ンテクストが複雑に重層して 手持ちの図式でさっさと割り いて、わずかな視力では捉え 懐疑的であれ 先のウクライナ問題一つと 響めている。 「国際政治 恐怖と じつつ、軍備縮小と平和維持 地域それぞれの価値体系とい な力関係と、国境を跨ぐ経済 いその理由について、政治的 う三つの視点から重層的に論 交流(というより格差)と、

点で性態に結論を引きださな 難の認識の上に立った「謙 の絶望的な難しさと、その困 いことを、問題ごとに強調し 虚な叡智」の必要を説いてい 懐疑的であること、一つの視 すぐに楽観せずにつとめて

という名の方向感覚を培って なこととして、高坂は「希望」 つねに懐疑的であることであ れるかという、そうした知性 に強手が出なくても、どこま いる。そのとき重要なのは の耐性を、この本は体現して 面もある おくことをあげている。 るが、さらにそれ以上に で事態のその複雑性に耐えら つまり問題が複雑すぎてすぐ に、どこまで潜水できるか。 息継ぎのために顔を上げ

希望という名の 戦争というものがなくならな

この本で高坂は、世界から

わしだ・きよかず 1949年京都 市生まれ。京都大大学院博士課程 修了。元大阪大学総長、前京都市 立芸術大学長。せんだいメディア テーク館長。専門は臨床哲学。「モ ードの迷宮」(サントリー学芸賞)、 「『聴く』ことの力」(桑原武夫 学芸賞)など着書多数。

強い現代の巨大社会では れているわけではない。 の行動に対する支持を生 の自由は、人びとの同 し、政府の力を強めるという

2022. 7. 29. 神户新聞朝刊 り ょ

参 考 From Kobe8 月 ひまわりの夏 2022 神戸便りより

インターネットで見つけた巨大企業トヨタの記事に最近の世相を重ねて

要 旨 自動車メーカーの「下請けイジメ」の記事に思う

サプライヤーの「ケイレツ格差」もう随分長いなぁ…と By Mutsu Nakanishi From Kobe

全文 https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/2022mutsu/fkobeR0408A.pdf

紹介記事 1. ダイヤモンド on line

2022. 7. 10.

自動車メーカーの「下請けイジメ」を示す衝撃データ大公開!搾取構造が浮き彫りに ダイヤモンド編集部 浅島亮子:副編集長

自動車産業は裾野が広く、完成車メーカーを頂点とするサプライヤーピラミッドを形成している。

近年、完成車メーカーやティア 1 (1 次下請け) などピラミッドの上位企業が好決算を挙げる中、それ以外の中下位 サプライヤーが潤わないケイレツ格差が問題視されるようになってきた。

実際に大企業による下請けイジメは存在するのか。特集『決算書 100 本ノック! 2022 夏』(全 21 回)の最終回では、大企業による搾取構造を示す衝撃データを明らかにする。(ダイヤモンド編集部副編集長 浅島亮子)

■ 特集『決算書 100 本ノック! 2022 夏』(全 21 回) https://diamond.jp/list/feature/p-fs100 2022summer

### 紹介記事2

THE OWNER 編集部 「下請けいじめと呼ぶかは自由だが・・・」

**■「下請けいじめ」の成果?コロナ禍でもトヨタ2兆円超えの黒字** 

https://the-owner.jp/archives/5624

■「下請けいじめと呼ぶかは自由だが・・・」との上記紹介記事の論調に違和感を感じて・・・

大企業・経済団体・官僚などが考える中央の考え方か? あの例の「トリクルダウン」の考え方そのものと

2022. 7. 15. Mutsu Nakanishi From Kobe

体力のある企業が収益を得て、現状に甘えて、新しい技術開発・先端技術開発を強力に推し進めず、 後回しにしたことが現在の日本の現状 出口のない日本衰退の道へと至らしめている。

「二番手ではいけないのですか・・」「トリクルダウン」の考え方に甘んじれば、長期の展望は開けない。

企業集団の中心にいる大企業と下請け企業がほぼ同じタイムで利益を享受できるのが筋ではないか・・…と。 そのことは 自動車事業とは別の企業集団 かつての高度成長時代を支えた鉄鋼集団の雄 日本製鉄が

トヨタに出した鋼材価格引き上げがもたらした日本経済全体に対する効果を見るがいい。 国際競争力に名を借りた大企業集団の横暴とみるべきではないか・・…

なぜなら この「下請けいじめ」といわれるトヨタの体質は本年のみ急に現れたものではないと見える。 日本のトップ企業が持つ体質とも見える。

いま 日本をけん引してきた自動車のみならず、鉄鋼・家電産業・エネルギー等々日本を引っ張ってきた 産業がほぼ時を同じくしてその成長性を失って、先の見通しが取れず、

少なからず「下請け・中小企業いじめ」と喪捉えられる対応がはびこっている。

今 日本の先行きのためには「成長」と「配分」と声高に言うだけでなく、しこたま内部留保を高めた企業 集団からの「配分」資源 そして新しい成長へ向けた積極投資の道で 社会底辺・インフラ整備を進めないと 日本の没落はさらに進むのではないか…。

そんな目でながめると「トヨタ」の存在のなんと大きいことか・・・・。

「トヨタ」への注目が高まるのも致し方なし。

また かつて「トヨタ」と同じ立場にあった「鉄鋼・素材」「エネルギー」「エレクトロニクス」等の産業にも 先行投資の声の大きい「新産業」とともに新しい息吹を吹き込むことが必要だろう。 いまや「成長と集中」の方向を見余らぬよう考えねばならぬポイントにあると思う。

いつもの年寄りのぶつぶつです。

2022.7.15. Mutsu Nakanishi